

育児の時短勤務など充実、多様性重視へ意識改革も推進

東海カーボンは創業104年の歴史を有する炭素（カーボン）業界のパイオニア。世界有数のシェアを持つ主力2事業、黒鉛電極とカーボンブラックに加えて、半導体製造装置部品などに使われるファインカーボン、アルミ精錬用のカソードや高炉ブロックなどを扱う精錬ライニング、ブレーキやクラッチに使用される摩擦材、リチウムイオン2次電池用負極材、さらには工業炉・関連製品を、欧米圏に広がるグローバル拠点にて製造・販売している。

同社は、サステナビリティ基本方針に則り、ESG（環境、社会、ガバナンス）に十分に配慮して経営戦略を立案し、事業を通じて社会課題の解決に取り組むことで持続可能な社会の実現に貢献することを目指している。「地球環境との調和」「事業を通じた社会課題への貢献」「経営基盤の強化」の3テーマ毎に重要課題（マテリアリティ）と具体的な目標を設定し取り組んでいる。

働く女性の活躍を後押しする取り組みについては、2020年、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定。単体ベースで2022年3月までの2年間で総合職新卒女性社員の採用比率を30%以上とすることなど

を目標として設定するとともに、女性管理職を2倍に増やす方針を掲げて取り組んでおり、2021年度の新卒女性社員比率が33.3%となっているほか、2021年12月末時点の女性社員の割合も5年前に比べて約2.2ポイント上昇するなど着実に結果を出している。

育児による時短勤務を小学3年まで認めているほか、産休や育休からの復職も元の職場への復帰を原則としつつ、家庭の状況や通勤距離などの事情を考慮して柔軟に対応。こうした取り組みにより育児休業からの復職率（単体ベース）は100%となっている。また、部長候補者研修においてダイバーシティ（多様性）をカリキュラムに取り入れるなど教育・研修を通じた社内意識改革を通じ、より働きやすい職場環境の実現に向けた取り組みを進めている。

グローバルに事業を展開する同社はグループ全体で4,000人超（2020年実績）の従業員を雇用しており、うち、約7割が働く海外のグループ会社ではすでに女性の役員も存在する。今後、グローバル経営の一環として、国内においても取り組みを加速させることで、ダイバーシティを強みとする企業風土の醸成を目指す。

